

# ペプチド研チーム 最高賞

## 牛の体外受精卵培養 無血清培地で実績

### 農水省などの功績者表彰

機能性ペプチド研究所（山形市、星宏良所長）の研究開発チームが、長年にわたり取り組んできた牛の体外受精卵を培養するための無血清培地の開発・製品化の実績が認められ、農林水産省などが主催する本年度の民間部門農林水産研究開発功績者表彰で最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。受賞したのは、同研究所の星所長（58）と山下祥子主任（44）の2人。最高賞は全国3件のうちの1件で、本県からの受賞は初めて。



農林水産大臣賞を受賞した機能性ペプチド研究所の星宏良所長（左）と山下祥子主任

＝山形市下条町4丁目

肉質の良い和牛や乳量の多い乳牛を効率的に生産できる繁殖技術として体外受精卵移植のニーズは高い。体外受精卵移植は、食肉処理される雌の肉牛から採取した卵子と、凍結保存した精子を体外で受精させ、外部の遺伝子の影響を受けない一定の大きさまで培養した後に雌の乳牛に移植、子牛を産ませる方法。生体内で作る受精卵（体内受精卵）に比べ低コストで大量生産が可能であることから畜産現場での注目度は高いという。

しかし、牛の血清で作った培地を用いる従来の培養技術では、受胎率が低い上に受精卵が細菌やウイルスに感染するリスクが高いといった技術的な課題も多かった。同研究所ではこうした課題を解決しようと、血清を使わない培地で高品質、高効率な受精卵を培養するシステムの研究に着手。1996年に牛体外受精卵生産用無血清培地キットなどを開発、製品化

した。これまでに、国内の半数以上の公的畜産試験場がこの培地を導入しているほか、個人開業獣医師や民間企業、大学などにも広く普及。中国や韓国への製品輸出も行って

いる。こうした長年の取り組みが、家畜繁殖分野の先端的研究や畜産現場で大きな実績を挙げていることが高く評